

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0270201494		
法人名	株式会社ウエルビーン		
事業所名	グループホームウエルパーク		
所在地 (電話番号)	〒036-8081 青森県弘前市福田字巻屋25番地8 (電話) 0172-29-5533		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月6日	評価確定日	平成21年12月30日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 10月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 22人, 非常勤 人, 常勤換算 22人	

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ銅版葺一部2階建て 造り		
	2階建ての 階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4,500 円	その他の経費(月額)	6,000~冬期12,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	11 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	12 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤内科小児科取上医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホーム独自の理念を大切に、職員全員が理念の実現に向けて日々取り組まれている。</p> <p>訪問看護ステーションと連携し、日々の健康チェックや緊急時の体制を整えている。また、近所のデイサービスとも交流を図り、商業区域で住宅地から少し離れた中でも交流が絶えない工夫をされている。災害時は住宅地からは少し離れているが、近所に消防署があり日頃から協力の呼びかけをされている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を基に改善事項を職員全員で話し合い取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で評価の意義や内容を話し合い、自己評価に取り組まれている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議でホームの取り組みや意見交換を行い、委員から出された意見は今後の運営に反映させている。しかし、行政や包括支援センターなどを活用した活発な取り組みがされていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>ホーム便りや面会時・電話等で暮らしぶりや受診結果・金銭管理等を定期的に報告している。また、ホーム内に苦情受付窓口を掲示したり、玄関に要望箱を設置し声がけしながら話しやすい環境を作り、速やかに対応できるように職員で話し合いをしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>商業地区で住宅地から少し離れている中でも、民謡の慰問を招いたり、ボランティアの受け入れを行うなど、地域との交流が図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2007年にホーム独自の理念を作成し、地域密着型サービスの意義を職員が理解し確認する様にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに理念を掲げ、毎日のケアにつなげるよう努め、その都度、理念に照らし合わせた話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	保育園児の訪問や民謡の慰問、弘大ボランティアの受入れ等交流を図っている。また、近隣の畑に作業に来ている方との交流、近隣商店街への買い物時、売り場の方とも積極的に会話をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は全員で取り組んでいる。評価のねらいや活用方法を職員に知らせており、外部評価後は見直しや改善につなげている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームの近況報告をし、要望や意見等も頂いている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>わからない事、利用者に関する相談がある時は行政へ相談し、助言を頂いている。</p>		<p>行政との積極的な交流を図りながら、運用上の課題解決、サービスの質の向上を期待したい。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員が制度の概要を理解出来るよう内部研修を行い、家族には制度について掲示やお知らせ等で情報を提供している。現在、権利擁護利用者は1人いる。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修への参加や、内部研修を行い、虐待防止について全職員が理解を深めており、日常的に管理者、職員間で注意を払っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項の説明、事業所のケアに関する考え方や利用料金等について利用者や家族に説明を行っている。利用者の状態変化による契約解除についても同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>報告は年4回のホーム便りや面会時、電話で適宜お知らせしている。金銭については、出納簿を作成し、毎月領収書のコピーを送付し、面会時に確認印を頂いている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に苦情窓口を設け、要望箱も設置している。相談、苦情簿を作成し、対応の経過を記し、職員間で話し合いを行い、質の向上につなげている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者への影響に配慮し、異動を行う時は引継ぎ期間を十分に取って利用者で紹介し、動揺を与えずスムーズに移行出来ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、外部研修へは職員の力量に合わせて参加したり、それにもとづく内部研修を実施し、職員の資質、意欲向上につなげている。		資格取得への対応等、職員の資質向上へ一層の取り組みを期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国や青森県のグループホーム協会に加入し、研修を通じた個々の交流はある。		行政や地域包括支援センターの協力を得ると同時に、同業者との相互訪問や意見交換等で、事業所としての取り組みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへ見学に来て頂いたり、自宅や病院を訪問して面会をしたり、ホームの情報を開示し、利用者、家族の不安を少しでも取り除けるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体を心がけ、職員はサポート的关系を理解したうえで、日々の暮らしの中できども喜び合い、楽しみ、一緒に行うといった工夫や声かけを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中での発言、行動に目を向け、本人がどのような生活を望んでいるのか、一人ひとりの思いや意向を把握すると共に、ご家族とも情報を共有し、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当を中心とした月1回のモニタリング会議を通じて情報の共有に努め、家族から面会時に出していただいた意見を取り入れた介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回現状評価と課題という形でモニタリングを行い、状態についての把握、話し合いをしている。状態が変化した際は、速やかに計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常時ホームには車両3台があり、外出時や受診時等に利用している。また家族宿泊時には、寝具や食事を提供されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療機関を継続して受診できるよう支援している。各棟に個人の受診先をファイルし、速やかに対応できる体制を整えている。状態によっては、家族了解のもと、専門医へ受診している。受診結果は速やかに家族等に報告し、情報の共有に努めている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医と家族を含め話し合い、ホームで出来る限りの支援をし、かかりつけ医等と連携を図り、対応できる体制がある。		入居時に、利用者に対するホームとしての指針を提示し、本人とホームでの医療機関に対する定めや知識習得の取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を「さん」づけで呼び、常に傾聴の心を忘れず、自信や誇りを傷つけないよう気をつけている。個人情報の取り扱いには注意し、プライバシー確保に努めている。		個人情報に関して契約時に家族等から、書類での承諾やそれらの保管場所に対する取り組みに期待したい。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの、お風呂の時間や就寝時間は、なるべく本人の希望に沿えるように対応している。利用者主体の生活ペースを尊重し、やりたい事への支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>年4回嗜好調査を行い、メニューに反映させている。日曜日はおやつ作りを行い、可能な限り参加してもらっている。どら焼き等もできたてを食べることで、作る楽しみにもつながっている。盛り付けや、片付け等も一緒に行ったりしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は週2回となっているが、本人の希望や気分を聞き、体調管理のうえ、時間に関わらず、無理強いせず、気持ちよく入浴してもらえるよう、本人のペースに合わせた対応を心がけている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりの得意分野を把握し、初めての物でもその人に合った作業をお願いし、それらを通じて自信につながるような支援をしている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出、ドライブに出かける際は、行きたい場所を尋ね、可能な限り希望に沿って出かけている。その日の天気や気分や季節に応じた旬な場所にも出かけ、季節の移り変わりを肌で感じてもらえるよう心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解し、拘束を行わない姿勢で日々のケアを提供している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホールは窓も大きく見守りやすい。玄関には鍵を掛せず、様子を観察しながら声がけしたり、付き添うようにして対応している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回昼夜を想定した避難訓練を警察署や消防署に呼びかけ行っている。		防災マニュアルや職員を含めた緊急連絡網を作成することが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎日、個別チェック表に記録しており、水分量は必要に応じて記録している。訴えに応じ補食や水分提供をしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを作成しており、最新情報に応じ随時見直ししている。内部研修やホーム便り、掲示を通じて、家族等にも感染症予防情報を提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>年中行事に応じて飾りつけをしたり、行事でとった写真等毎月貼りかえし、季節感・生活感を取り入れている。ホールにはロールカーテンを使用し、光の調節をし、家庭的な雰囲気をつくり出している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものを持参するように家族と相談し、本人の愛用した物や気に入った物を置くようにしている。仏壇を持ち込み、お菓子を供えたり、お花をかえたりする利用者もいる。</p>		

 は、重点項目。